

本人が物語風に綴る闘病記

44歳で甲状腺がんと中咽頭がんが見つかりましたが、
中2の娘が「大したことないやん」と言うので。

著：原 利彦（1972年 生まれ）



甲状腺がん 手術編 014：LET IT BE（なるがままに）。

2017年3月28日（火） 入院当日

待合室は人で、ごった返していました。

トキは毎度、『誰が患者で、誰が付き添いなのか？』そんな目で人々を見てしまいます。



病室は個室でした。手術の前後は
諸々あるので個室なのです。トモがトキ
の身の回りの物を整理していました。

昼になり食事が出ました。薄味のちゃん
ぽんとシュウマイ3つ、これが初めての病
院食でした。

手術を行うのは部長ですが、治療全体に関しては、昨日、手術の説明をされた若い先生が、トキの主治医になるとのことでした。昨日、初めて会った先生。30歳代前半の若い先生。この先生のことをトキは、まだ何も知りませんが、トキは思いました。

『この先生のメガネ、僕と同じデザインだ』。

因みに総合病院その2の若手先生も、トキと同じ
デザインのメガネをかけていました。きっと、そういう流
れなのでしょう。



トキは、『同じメガネ』それだけで、迷わず、この先生を信じて頑張っていこうと判断しました。

この若い主治医の説明は相変わらず、サバサバ、淡々としており、白黒はっきりしている口調です。基本的に死なない状態だからでしょうか？しかし、「骨や肺への転移は見られませんが、リンパ節に転移しているだけでも、今後の再発、転移を考えれば、ハイリスクです」と、ハッキリ言いました。

トキは、それなりに、ビビりました。

各手術、麻酔、治療、検査、入院などについての説明、その各書類に同意の署名をしなければなりません。これが大量にあるのです。トキは、これでもかと書類にサインしました。



病院側にとっては、『承諾しましたよね？』と、これが万が一の保証になるのです。この度、万が一があっては困るのですが、当然の段取りです。

ここまで来ると、後戻りは出来ません。LET IT BE (なるがままに) です。



夜になって、トキは妹が貸してくれたDVDプレーヤーで映画「ミニオンズ」を見ました。セリフがほとんど、ミニオン語なので、日本語吹き替えで見ても、さほど変わりがないなあと、穏やかな笑いに包まれながら、

ある意味、最後の日を終わりました。

⇒ 015 : みんなが、ついているので安心しろ！